

# 「小さな風景」のある建築

人々の自律的な活動をはぐくむ居場所をめざして



横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院  
教授 乾久美子

# 「小さな風景からの学び」というリサーチ

人々が自発的に場所を見つけ、そこをいきいきと使っている様子を「小さな風景」と称し、それらを全国をめぐって撮影して分析しました。多くは多様なタイプのコミュニティによって形づくられた居場所だったり、活動の風景だったりします。18,000ほどの事例を150ほどのパターンに分類し、それぞれの特徴を解説するような書籍としてまとめました。

商業主義的な空間やサービスで取り囲まれているように感じてしまう私たちの生活ですが、よく眺めてみると、まだまだ、自治的なものや、自律性にあふれた活動があふれていることがわかる事例が多く集まりました。



乾久美子、東京藝術大学乾久美子研究室  
「小さな風景からの学び」(TOTO出版・2014年)

## 多様な資源に着目し、コモンズの再生を目指す

「小さな風景」は、小さなグループのちょっとした居場所から、大人数が通りを占拠して市を開くというようなものまである、多様なタイプの人の集まりや、活動の痕跡です。集まりはいろいろなきっかけから生まれるようです。湧水や木陰といった、いかにも快適なものはもちろんのこと、時には、「このようなものが！」と驚いてしまうぐらい意外な対象が、その価値を見出され、自由に使いこなされていることも多いです。

かつては、井戸や里山などがコモンズ(共有地、入会地など)として人々に共有されながら、使い続けられてきました。そうした伝統的なコモンズは現代では減少しています。しかしながら、現代らしい視点から新しい資源が見出され、使われているのではないのでしょうか。



乾久美子、東京藝術大学乾久美子研究室「小さな風景からの学び」(TOTO出版・2014年)  
事例写真



乾久美子建築事務所「延岡駅周辺整備プロジェクト」(2018年)、撮影 阿野太一

## 建築に「小さな風景」を埋め込む

横浜国立大学で建築設計について教鞭をとる傍らで、建築設計事務所を構えて、実際の設計活動を行なっています。設計では、使う人が自由を感じて、自分のやりたいことをできるような場所づくりを目指しています。また、ただ、やりたいことをやるだけではなく、そうした場所を皆でつくり、皆で育てているという気持ちが起こるようなものにしたいと思っています。さらに、まっさらな状態から全てをデザインする行為として建築設計を捉えるのではなく、既知の要素を創造的に組み合わせながら、新しい価値をつむぎ出していく行為であると捉えています。

「小さな風景からの学び」の事例は、そうした場所のお手本といえるものが多く、場所の作り方や、運営の方法など含めて参考にしています。また、場所のサイズや家具の配置などの具体的な情報を参照することもあります。「小さな風景」を埋め込むように、建築設計を行っています。

この研究に取り組んでいるのは

### 乾久美子(いぬいくみこ)

横浜国立大学都市科学部／大学院都市イノベーション研究院 教授  
イェール大学建築学部修了

東京藝術大学准教授を経て現職。専門は建築意匠。一級建築士の資格をもち、有限会社乾久美子建築設計事務所を主宰している。

(URL : <https://www.inuiuni.com/>)



## 本棚 参考図書のご紹介

### 高校生向け書籍

- クリストファー・アレグザンダー(訳者平田翰那)「パタン・ランゲージー環境設計の手引」  
(鹿島出版会・1984年)
- 乾久美子、東京藝術大学乾久美子研究室「小さな風景からの学び」  
(TOTO出版・2014年)

### より詳しく知りたい人は(専門向け)

- クリストファー・アレグザンダー(監訳難波和彦)「まちづくりの新しい理論」  
(鹿島出版会・1989年)
- 宇沢弘文・茂木愛一郎編「社会的共通資本-コモンズと都市」  
(東京大学出版会・1994年)
- エリック・クリネンバーグ「集まる場所が必要だ-孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学」  
(英治出版・2021年)

### 最近の建築作品

- 「釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市児童館」(岩手県釜石市・2018年)
- 「延岡駅周辺整備プロジェクト」(宮崎県延岡市・2018年)
- 「宮島口旅客ターミナル」(広島県廿日市市・2021年)